

はじめに

私は、本年 10 月 11 日告示の南部町長選挙で凶らずも無投票当選をさせて頂きました。多くの町民の皆さんのご支援の賜物であり、大変光栄であると共に今この壇上に立ち、あらためて身の引き締まる思いです。これからの厳しい時代を見据え、時代を切り拓く覚悟を持ち、全身全霊を傾けて町政運営に取り組んでまいります。

南部町が誕生して 12 年、前坂本昭文町長がまちづくりの礎となる住民自治の場「地域振興協議会」、西伯病院、特別養護老人ホーム「ゆうらく」などの充実した医療福祉環境、地域と学校の共同システムであるコミュニティスクール実現など、先進的な基盤が整ってまいりました。私は今後 4 年間の南部町政の責任者として、更にこの基盤を充実発展させながら 1 万 1 千人の町民の皆さんが豊かさを実感する「なんぶ暮らし」の創造に取り組んでまいりますのでどうかよろしくお願いいたします。

本議会は就任後初の定例議会でありますので、私に与えられた 4 年の任期中の町政運営について所信の一端を申し述べ、議会を通じて町民の皆様のご理解をいただきたいと思います。

三つの政策理念「つなぐ・変える・挑戦する」

南部町は昨年、環境省が次世代に残す貴重な里地里山 500 選の中で町内全域が指定されました。町丸ごとの指定は西日本で唯一です。古事記にも記載された長い歴史と人々の営みの中で創り上げた、この里地里山の価値を次世代に「つなぐ」ことが重要です。しかし一方で、世界に類を見ないスピードで進む超高齢社会、人口減少社会の到来は、道路・上下水道・公共交通などの社会的インフラをはじめ農林業や自然環境を次世代につなぐには、これまで行政主体で担ってきた公共から、技術やアイデア、創造力を持つ多様な団体との共働へ「変える」ことが重要となってきました。

私は今期 4 年間を通じて、つぎの 3 つの C 「つなぐ connect」「変える change」「挑戦する challenge」を私の政策理念とし、この社会の大きな変化を改革のチャンスと捉え、南部町の新たな価値の創造に「5 つの挑戦」をしてまいります。

五つの挑戦

なんぶ創生に挑戦

1 つ目は、なんぶ創生に挑戦してまいります。平成 27 年度に作成された、なんぶ創生総合戦略を効果検証しながら、141 事業を有効に

機能させることで人口減少を緩やかなものにしなければなりません。特に南部町の充実した子育て支援を広くアピールし、子育て世代の移住定住を促進します。

地域集落の役員や農地を守ってきた 60 代から 70 代前半が今後急速に減少します。南部町では過去 20 年間で 12%増加した前期高齢者が今後 20 年間で 39%減少しようとしています。若者の移住同様に、多様な世代がバランスよく地域に溶け込むことが重要です。昨年からは、南部町版 CCRC（生涯活躍のまち構想）を本年度から本格的に推進します。この移住に当たっては、町と地域振興協議会、さらに昨年誕生したまちづくり会社「なんぶ里山デザイン機構」が連携しながら集落との橋渡しをしてまいります。実施にあたっては、鳥取県と合同で作成したモデルプランを基調にしながら、町・まちづくり会社・地域振興協議会・生涯活躍のまち推進協議会、鳥取県、医療福祉機関、金融機関等が連携して進めることとなります。人口減少社会の中で各集落・振興協議会の地域コミュニティを可能な限り維持していくためには「守りながらも攻める」姿勢が重要です。昨年、県と作成したモデルプランによると、法勝寺地区を拠点エリアとし、天萬地区と賀野地区にサテライト拠点を整備する計画になっています。

また、南さいはく地域振興協議会は鳥取県×日本財団共同プロジェクト「中山間地域等の生活支援」の申請を準備検討されていますので、この4地域を中心に地域活力の維持と新たな創造に挑戦していきます。実施にあたっては地域の皆さんと検討会を十分に重ねながら、次の世代にも支持され誇れる「なんぶ暮らし」を生み出していきたいと考えています。

具体的には、法勝寺地区の交流拠点づくりは、まちづくり会社なんぶ里山デザイン機構が推進するお試し住宅整備を本年度中に完成させ、なんぶ暮らしの体験交流や地域での支えあいの拠点として活用します。今後、民間活力による地域交流拠点の整備運営、法勝寺分館建替えに合わせた複合施設の建設計画を順次進めていきます。

天萬地区では「天萬宿の賑わい創出」をテーマに、全国学生連携機構（JASCA）の学生たちが空き家を活用した宿泊施設の整備や、古民家を活用した多世代交流の場所づくりなど、若者の感性や移住する側の視点に立った活性化案を発表しました。地元での議論の深化を待ち拠点整備を進めます。賀野地区では富有の里地域振興協議会が中心となって農産物加工施設えぷろんを改修した拠点整備の検討が進められています。南さいはく地区は振興協議会を中心に、この地

域にある「ほっこりした人間感」「里地・里山の風情」「地域住民の想い」を活かした地域住民の生きがいづくりを通して、老いても安心して暮らせる地域づくりをめざしておられますので、今後地域での議論を見守りながら整備計画を練って参ります。

こども達がいきいき育つ環境と人材育成に挑戦

2つ目は、こども達がいきいき育つ環境と人材育成に挑戦します。こどもは社会の宝、未来への希望です。こども達が自らの可能性を伸ばし、成長するための学習、スポーツの場を提供することが大切です。また、こども達の将来が生まれ育った環境で出来るだけ左右されない環境整備も必要でしょう。これまで保育園での幼児教育と小学校、中学校の義務教育に加え、「南部町に高校はないが高校生はいる」という視点で高校生も参加した、0歳から18歳までを通じた教育と人材育成が必要だと考えます。慶応大学特別招聘教授 夏野 剛さんは「AI（人工知能）共存時代の教育」と題した記事のなかで、「これからの子供たちに必要な資質は二つのソウゾウリョク、創造力と想像力だ。人間の二つのソウゾウリョクはAIに勝る。それらを育てる機会を提供することが教育の役割だ」といっておられます。生きる力を育むのが教育でなければなりません。メイド・イン世界、人工知能、

ロボットと競合させない、生きる力を育む教育が求められると思います。人工知能やロボットで代用できない人材をめざす教育を、ぜひ南部町から発信していきたいと願っています。韓国ハンリム大学との21年に及ぶ交流や、全国学生連携機構、職員派遣をしている鳥取大学とのつながりを活かし、子ども達がいきいき育つ環境と人材育成に挑戦してまいります。

具体的には、平成26年度からの少子化対策・子育て支援制度が本年度末で終了しますが、これまでの3年間の施策の内容を検証・見直し、子ども子育て支援事業計画・なんぶ創生総合戦略の内容に沿って引き続き事業を実施し、検証見直しの中で在宅育児世帯への支援制度についても検討します。

小・中学校の空調整備を計画的に進め、夏場の教育環境を整備します。南部町には幼い子どもをあそばせる場所がないというご意見もお聞きしました。ぜひ、子育て世代の皆さんといっしょに作る小さな公園づくり、ポケットパークの整備を行いたいと思います。子どもの居場所づくり推進モデル事業を利用し、来年度から法勝寺児童館において土曜日に来館する児童に対し昼食を提供することで、子どもの心身の健やかな成長を支援してまいります。

韓国ハンリム大学や学生連携機構等と連携し、町内高校生との交流を進めます。高校生サークルを充実させ、地域活動や海外研修を通じて人材育成を進めます。経営者や管理職がイクボス宣言し、町民の子育てを応援する取組を支援します。

この様な取組を通じて「南部町に生まれてよかった」「南部町で子どもを育てたい」そう感じてもらえる、なんぶ暮らしに挑戦します。

健康長寿のまちづくりに挑戦

3つ目は、健康長寿のまちづくりに挑戦します。健康寿命をキーワードに、西伯病院と町内診療所、スポネットなんぶ、ゆうらくなど、南部町の保健・医療・福祉資源を最大限に活用し、運動習慣による生活習慣病予防に取り組みます。少しデータが古いのですが、厚生労働省「平成 22 年国民生活基盤調査」によると、要介護度別にみた介護が必要となった主な原因では、脳卒中や糖尿病などの生活習慣病が 3 割、認知症、高齢による衰弱、関節疾患、骨折・転倒で 5 割という結果が示すように、食と運動の習慣化で元気に暮らし続ける伸びしろは十分にある事が解っています。今後、さらに多くの方に参加頂くためには、高齢になっても歩いていける集落内の集会所、公民館を運動習慣の活動場所に位置づけ、高齢者が定期的に集う事での見守り機

能や、昔からの顔なじみ仲間との集いは、認知症予防とコミュニティ機能の向上を期待してします。また、医食同源と云われるように食事と健康は深く関わっており、統合医療を取り入れ、心と身体の健康に関して研究を行ってまいります。

健康寿命を延ばすためには、一人ひとりの健康に対する意識を高めて頂くことが重要です。特定健診、がん検診の受診率は県内でも上位ですが、40代からの高血圧、脂質異常症、糖尿病が増加しており、服薬している方が多い反面、生活習慣の改善意欲が低いことが解ってきました。40代からの生活習慣病予防、ガンによる死亡を減少させるため、特定健診、がん検診の受診率を県下でトップを目指します。生活習慣の改善には運動習慣の動機づけが必要ですので、健康ポイントシステムとして、健診やウォーキング、各種健康行事参加などにポイントを付与することで運動習慣のきっかけづくりを検討します。

平成26年度国立がんセンターのデータで鳥取県の「がん75歳未満年齢調整死亡率」は全国45位ワースト3でした。この傾向はここ10年定着しており大きな課題になっています。さらに、南部町は鳥取県内の喫煙率でワースト3でありました。(協会けんぽの生活習慣病予防健診問診データによる。)生活習慣病予防の普及啓発の意味か

らも、公共施設の敷地内禁煙を検討いたします。さしあたって、法勝寺庁舎、天萬庁舎、健康管理センターすこやかかの3庁舎は平成29年10月1日から敷地内禁煙といたします。趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

人と地球環境にやさしい共生のまちづくりに挑戦

4つ目に、人と地球環境にやさしい共生のまちづくりに挑戦します。南部町の生物多様性と里地里山の環境や景観を支えているのは中山間地の農業であり、林業、そして集落の活力です。中山間地農業を守ることで里地里山を次世代につなげていくことが重要です。集落営農、農業法人、耕畜連携やドローンなど最新技術を導入し生産性を上げることが農地を守るうえで大切です。観光や特産品開発など中山間地の活力維持に挑戦します。

高齢者、障がい者が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、買い物や医療などのための交通政策を超高齢社会に適合させ変化させなければなりません。今後の公共交通の在り方を検討する必要があります。

再生可能エネルギーの普及を推進し、ごみの減量化、再資源化を進めることで低炭素社会・循環型社会をめざしてまいります。

平成 12 年の鳥取西部地震から 16 年が経過し、地震への備えが風化傾向にあった中で中部地震が発生しました。役場の防災機能を再点検し、毎年日本のどこかで繰返される地震、台風、集中豪雨に対応する防災センターを検討いたします。また、過去の災害に学び、知識と知恵による減災教育を進めます。

「人権が大黒柱のまちづくり」を町の重要な施策に位置付け、南部町人権会議や部落差別をはじめあらゆる差別をなくす取り組みを今後も推進してまいります。差別を許さない社会意識の形成を通じて、明るく住みよい南部町をめざしてまいります。

行財政改革に挑戦

5 つ目に、行財政改革に挑戦します。将来世代が豊かさを実感する、南部町が好きだと思われ誇れる町にするためには、財政規律を守りながらも必要な投資はしなければなりません。役場はムダやムラを排除した、機動性に富んだ組織でなければなりません。NPO、振興協議会、民間企業等が連携しながら、お互いがその特徴と得意分野で活躍する公民連携を進め、公共の在り方を変えていく必要があります。そして、人口減少、超高齢社会に対応した行政機能を点検し機構改革を行います。

法勝寺分館の建て替えでは、公民連携で民間ノウハウを取り入れ、将来世代が受け入れられる低コストで高機能なサービスを提供できる複合施設を検討してまいります。

社会構造の変化に対応した行政サービスのあり方を研究し、社会や住民のニーズに対応、変化させることが大切です。そして将来の世代に負担を押し付けない財政運営をつうじて、町民のみなさまが将来にわたり安全で安心して暮らせる地域社会を築き「南部町に住んでよかった」と実感していただけるまちづくりに挑戦してまいります。

おわりに

92年前の8月、この地を法勝寺電車が走り始めました。昨年修復を終え帰って来たその姿は、先人達の挑戦する心、あきらめない心を語りかけています。

佐野川用水、243年あきらめなかった想い。越敷野台地を開墾し、柿、梨づくりに挑戦した想い。法勝寺川、小松谷川にダムを建設し、流域の洪水を防ぎ農地を潤す夢にかけた想い。先人達の未来にかけた想い、挑戦する心。それを私は「なんぶ魂」「なんぶスピリット」と思います。

政治は未来の為にある。

私たちの中にもある「なんぶ魂」「なんぶスピリット」を奮い立たせ、住民のみなさま、議会のみなさまと力を合わせ、1万1千人の町民が豊かさを実感する「なんぶ暮らし」の創造に全力で取り組んでまいりますので、どうかよろしく願いいたします。